

イツァークパールマン *Japan Tour 2017* PERLMAN

VIOLIN RECITAL

■イツァーク・パールマン

1945年、イスラエルに生まれたパールマンは、テル・アヴィヴ音楽院で学んだ後ニューヨークに渡ると、1958年「エド・サリヴァン・ショー」への出演をきっかけに演奏活動を開始。イヴァン・ガラミアン、ドロシー・ディレイのもとジュリアード音楽院で研鑽を続け、1964年にレーヴェントリット国際コンクールで優勝。以来、世界の主要なオーケストラとの共演やリサイタルを行っている。その圧倒的なパフォーマンスと実績は、まさにクラシック界を代表するスーパースターと呼ばれるに相応しい。

2003年ジョン・F・ケネディ・センターは彼の業績を称え、ケネディ・センター名誉賞を授与。2007年5月にはホワイトハウスで催されたエリザベス女王の歓迎晩餐会でも演奏を行った。2009年には、オバマ大統領就任式でジョン・ウィリアムズの新作をヨーヨー・マとともに演奏。また、2014年秋には、ロサンゼルス・フィルのオープニング・ガラにおいて、グスターボ・ドゥダメルと共演している。2015年3月には、彼の人気作「イン・ザ・フィドラーズ・ハウス」が20周年を迎えることを記念したプログラムでカーネギーホールに登場するなど、ユダヤの伝統やクレズマー音楽を世に知らせる活動を熱心に続けている。

指揮者としての活動も旺盛で、ニューヨーク・フィル、シカゴ響、フィラデルフィア管、ボストン響、ナショナル響、ロサンゼルス・フィル、セントポール室内管、サンフランシスコ響等と共演。2002～04年にはセントルイス響のミュージック・アドバイザー、2001～05年には、デトロイト響の首席客演指揮者を務めた。アメリカ国外では、ベルリン・フィル、コンサートヘボウ管、ロンドン響、イギリス室内管等を指揮。特に祖国のイスラエル・フィルとは長きにわたる親交を結び、東欧諸国初となったワルシャワ、ブダペストでの公演(1987年)、ロシアでの初ツアー(1990年)や、中国、インドにおける初ツアー(1994年)にも参加している。

レコーディングにおいては、2008年2月、グラミー賞特別功労賞を受賞。これまでに15回のグラミー賞を受賞。また、スティーヴン・スピルバーグ監督のアカデミー賞受賞作品「シンドラーのリスト」(音楽:ジョン・ウィリアムズ)、チャン・イーモウ監督「ヒーロー」(音楽:タン・ドゥン)や、ロブ・マーシャル監督「SAYURI」(音楽:ジョン・ウィリアムズ)等の映画音楽でソリストを務めている。最近では、イツァーク・メイア・ヘルフゴット、クレズマー・バンドとのコラボレーションによる「エターナル・エコーズ」(ソニー)、ヨーヨー・マ、エマニュエル・アックスとのトリオによるメンデルスゾーンピアノ三重奏(ソニー)、イスラエル・フィルを指揮したドイツ・グラモフォンへの録音があるほか、2016年秋には、世界最高のピアニストの1人マルタ・アルゲリッチと共演したアルバムをリリース(ワーナー・ミュージック)。19年ぶりの顔合わせが大きな話題となっている。

教育活動にも熱心に取り組む、ジュリアード音楽院の夏期講習で教鞭を執る。多くの大学から名誉学位を与えられ、2005年、ジュリアード音楽院創立100周年記念の際には名誉博士号とメダルを授与された。1986年にはレーガン大統領から「メダル・オブ・リパティ」、2000年クリントン大統領から「ナショナル・メダル・オブ・アーツ」の称号も与えられているほか、2015年11月には、オバマ大統領から「大統領自由勲章」を授与されている。

パールマンが活躍する姿は、身体の不自由な人々を代表して雄弁に語る意味も併せ持つ。そしてそれは彼の人生においてとても重要な部分を占めているのだ。

■ロハン・デ・シルヴァ

スリランカ生まれのロハン・デ・シルヴァは、ロンドンの王立音楽院で学んだ後、スリランカ大統領基金による芸術特別奨学金の初の受賞者となってジュリアード音楽院に入学。音楽学士・修士号を取得した。1990年にはチャイコフスキー国際コンクールで最優秀伴奏者特別賞を受賞。2005年クラシカル録音基金賞のセレモニーで、サミュエル・サンダース共演者賞を授与された。1991年にジュリアード音楽院のスタッフとなり、1992年には王立音楽院の名誉会員にも推挙されている。

これまで、パールマンはもとより、五嶋みどり、ジョシュア・ベル、竹澤恭子、ワディム・レーピン、ギル・シャハム、ジュリアン・ラクリン等、ヴァイオリンの名手たちと共演し、世界各国で絶賛を浴びているほか、アスペン、マンチェスター、ラヴィニア、シュレスヴィヒ=ホルシュタイン、札幌PMF等の音楽祭にも出演している。パールマンからの信頼は極めて厚く、北米・アジアおよびヨーロッパツアーに同行し、いづれも高い評価を得ている。ホワイトハウスでのパールマンとの共演も数回に及び、近年では、2012年にオバマ大統領夫妻に招かれて演奏を行った。ラジオ・テレビ出演やレコーディングも多数行っているロハンは、まさに現代のクラシック界を代表する名伴奏ピアニストとして知られる存在だ。

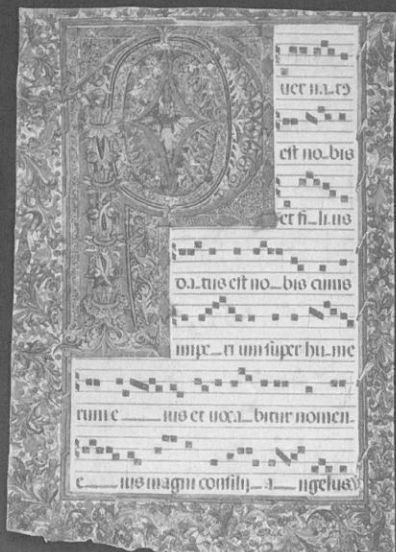


イツァーク・パールマン
(ヴァイオリン)
Itzhak Perlman, violin
PHOTO: CHRISTIAN STEINER



ロハン・デ・シルヴァ
(ピアノ)
Rohan De Silva, piano
PHOTO: JOHN BEEBE

人は、感動を伝えたい。



現在の五線譜のルーツともいわれる「譜線ネウマ譜」。中世10～11世紀頃、旋律の抑揚を記すネウマという記号に横線(譜線)を添え、音程関係を明確にする試みが行われた。この写真は13世紀スペインの「5線ネウマ譜」でクリスマスのためのミサ聖歌が記されている。(ニューヨーク、スペイン協会蔵)音楽之友社「楽譜の歴史」より

FUJI XEROX

音楽、それは時間の芸術。奏でられたそばから消えていく音の芸術を、見えるものとして記録し、広く永遠に伝えたい。人は遙か昔から、そんな思いを楽譜というドキュメントに託してきました。楽譜が、音楽の感動を拓けてきたように、ひとりのアイデアや考えをドキュメントによって、時間を超え、空間を超え、みんなのものへと拓けていきたい。富士ゼロックスは、そんなオープンで創造的なオフィス環境をめざしています。

www.fujixerox.co.jp

Xerox, Xeroxロゴ、およびFuji Xeroxロゴは、米国ゼロックス社の登録商標または商標です。

富士ゼロックス株式会社